



NEWS LETTER



令和5年度ダイバーシティ・シンポジウム

日 時: 2023年12月12日(火) 13:30-15:35
会 場: 富山大学五福キャンパス 黒田講堂
参加者: 177名(会場110名、オンライン67名)



第一部 認定NPO法人REALs理事長 瀬谷 ルミ子氏

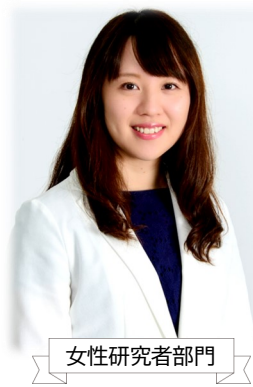


第二部 学長賞受賞者と齋藤学長(中央右)、東田教授(左)

第一部では、認定NPO法人REALs理事長の瀬谷ルミ子氏を迎え、「紛争解決という職業:世界で起きていることと私たちにできること」と題してご講演いただきました。女性が和平合意に参画すると成功率が35%上がるというデータを示しつつも、女性登用は(女性の持つ本能的な性質や機能といった)母性の話ではなく、弱い立場、不安定な立場としての視点を盛り込むことで持続可能な施策が構築できると話されました。若い世代に向けたメッセージでは、生き方の選択肢には使用期限があり、心が熱くなる出来事に出会ったら、その気持ち(必ず冷めるときが来るので)冷めないうちに行動することが大切だと語られ、多くの参加者の心を鼓舞した講話となりました。

第二部では、優れた成果を挙げた本学の女性研究者2名に対し、齋藤学長から「未知に挑む女性研究者賞」が授与されました。表彰式後には受賞者の研究紹介も行われ、学長からの講評では「女性研究者のロールモデルとして今後の活躍に大いに期待します」とエールが送られました。

富山大学学長賞「未知に挑む女性研究者賞」受賞者からのコメント



女性研究者部門

楊 熙蒙 氏

学術研究部薬学・和漢系
助教
(和漢医薬学総合研究所)

研究テーマ

「脳内での軸索再伸長に基づいたアルツハイマー病の新規治療戦略の開発」

この度は、富山大学学長賞第7回「未知に挑む女性研究者賞」を賜り、大変光栄に思っております。齋藤学長、審査員の先生方、関係者の皆様、そして学部生の頃からご指導いただきました東田千尋教授に深く御礼申し上げます。私は、アルツハイマー病を根本的に治療することを目指し、研究を行っております。最新の研究成果では、山薬中の成分である「ジオスゲニン」を投与すると、アルツハイマー病モデルマウス脳内のいったん萎縮した軸索(神経突起のひとつ)がつながるべき脳部位に向かって再伸長すること、この現象が記憶障害の回復をもたらすことを明らかにしました。本賞の受賞を励みに、今後も真摯に研究に向き合い、精進して参ります。



女子学生部門

井城 綸沙 氏

医学薬学教育部
博士後期課程3年
(薬科学専攻)

研究テーマ

「骨格筋萎縮により誘発される認知障害発症メカニズムの解明」

この度は、このような素晴らしい賞を拝受し、大変光栄です。齋藤学長並びに関係者の皆様には深く御礼申し上げます。私は、骨格筋の萎縮によって引き起こされる認知障害について研究しております。筋肉から分泌されるタンパク質に着目し、骨格筋にアプローチした新しい認知症予防戦略の確立を目指しています。「新しい薬を創りたい」という夢を抱いてこの富山大学に入学しました。研究のおもしろさはすべて大学で学んだものです。指導教員の東田千尋教授と神経機能学の皆様には心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ダイバーシティ・管理職研修

日 時:2024年3月8日(金) 13:30-14:30
参加者:81名(会場18名、オンライン63名)

会 場:富山大学 事務局5階大会議室(Teamsライブ配信あり)

元名古屋大学総長、現東海国立大学機構長の松尾清一氏を講師にお迎えし、「アカデミアにおけるダイバーシティの課題と展望—日本の動きと、東海国立大学機構の取り組み—」と題してご講演いただき、大学経営の中核を担う教職員の皆様を対象に研修を実施しました。

日本が直面している少子高齢化社会における女性活躍の必要性を、男女共同参画の現状を示す様々なデータを用いてお話しいただいた後、名古屋大学が女性教員比率向上に向けて取り組んだ事例をご紹介いただきました。学童を併設した保育所の設置や、研究グループを率いる女性研究リーダーの育成と増加を目的とした女性リーダー「PI (Principal Investigator)」枠の設置など、さまざまなポジティブ・アクションを導入しながら、同時にワークライフバランスの推進のための施策を投じるなど、参考となる取り組み例を多くご紹介いただきました。

一方、国連のHeForSheプロジェクトに唯一日本の大学として選出された際に参加した国連本部での会議では、海外の大学が設定する目標値と名古屋大学の目標値との乖離が大きく、日本がいかにか遅れているかを感じたとのエピソードもありました。

育児・介護との両立支援の拡充や、アカデミアを目指す女子学生を育成するカリキュラムの見直しなど、課題は山積しています。名古屋大学では施策を投じる中でジェンダー平等に関心のある人口が増え、推進力が高まりました。当センターでは引き続き、このような研修などにより多様性推進について考察する機会を提供していきたいと思いをします。



出前講座「キャリア・デザイン」(富山市主催)

現在の社会状況を踏まえ、本学の学生が自身のキャリア・デザインについて学ぶための講演会を、富山市男女共同参画センターとの連携事業として例年実施しています。今年度は、12月18日(月)、一般財団法人女性労働協会の坂本真理子氏に「女性活躍推進時代のキャリア・デザイン」と題してご講演いただき、学生117名の参加がありました。



参加者の声
キャリアプランの立て方は、昔と今では違う。変動的な時代だからこそ、自分らしさを見失わずにいたいと思った。



煌めく女性リーダー塾 (富山県主催)

「煌めく女性リーダー塾」は、富山県主催で県内企業等における女性活躍を推進するため、リーダーを目指す女性社員の相互交流と自己研鑽を図り、業種の枠を超えたネットワークを構築するものです。富山大学からは、2名の女性職員が参加しました。

【スキルアップコース】財務施設部経理第一課 係長 杉田 実和子さん
ロジカル(論理的)スキルという言葉に惹かれ参加しました。研修では伝え方のコツを新たな視点で学び、先輩からの「何が起きてもびくつきしないで受け止める。」という言葉は仕事の際の心構えとしたいと思いをします。

【アクションラーニングコース】総務部人事課 係長 武藤 香織さん
異業種の方々とのディスカッションで様々な考え方に触れ、共に課題に取り組んだことがとても刺激となりました。自分の強みを活かして組織貢献することや、将来ありたい姿などについて深く考える貴重な機会となりました。



のびのびシネマ(第5回)

人文学部の須永修枝先生との共催で、SDGsをテーマとした映画を鑑賞する機会を創出しています。鑑賞後には意見交換を行い、参加者が様々な価値観に触れ、自身の考えを深めます。

12月22日(金)、今年度第5回となるのびのびシネマを開催しました。上映作品は「ガザ 素顔の日常」です。現在、イスラエル軍とハマス(パレスチナ)の武力衝突が激化し、過去最大規模の被害が双方に出ている緊迫状態が続いています。報道以外に現地の様子について知る術がほぼ無い中、この映画を通してガザ地区の人々が抱える想いを垣間見ることができ、ガザの人々へ思いを馳せ、自分に何ができるかを考える有意義な時間となりました。



参加者の声
報道では見られない情報を得ることで、世界情勢について多層的に物事を見ることができた。



Smart Café

Smart café in 芸術文化学部



12月15日(金)に、大学院への進学や研究職への理解を深める場として、Smart Café in 芸術文化学部を開催しました。芸術文化学部の井上祥子先生、小泉巧先生の2名をお招きし、ご自身の大学院生時代のお話、特別研究員という制度や学会などについて参加者からの質問を交えながら伺いました。司会進行を三宮千佳先生、幸亮太先生に務めていただき、終始和やかな雰囲気です座談会が進みました。

参加者の声



- ・作家をしながら研究職として働くという選択肢もあることを知ることができた。
- ・大学院でも、自分の好きな分野の研究を継続できることが分かって安心した。



Smart café in 医学系附属病院～キャリアアップ座談会～

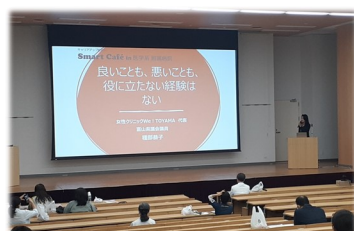


2月20日(火)に、Smart Café in 医学系附属病院～キャリアアップ座談会～を開催しました。医師のダイバーシティ推進室による職員アンケート結果報告の後、富山医科薬科大学の卒業生である産婦人科医、富山県議会議員の種部恭子先生に「良いことも、悪いことも、役に立たない経験はない」と題してご講演いただきました。また、本学人事課職員による子育て支援制度の説明もあり、仕事と家庭の両立について理解を深める機会となりました。

参加者の声



- ・子育て支援制度も変化しており、不妊治療にも支援があることを今回知ることができた。
- ・種部先生のお話に背中を押されたような気持ちになりました。



※過去のSmart Café 一覧はこちら (<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/project-list.html#smartcafe>)

男性育休応援!!

パパ育休レポート



3人の子供の成長を守る。妻の負担を減らす。お父さんは縁の下の力持ち！

総務部 情報推進課

野上 将司さん (令和6年1月に育児休業取得)

■育児休業を取得してよかったこと

3人目の出生に伴い育児休業を取得しました。1人目、2人目もまだ未就学児で手がかかる状況でしたが、育児休業のおかげで時間を確保できたため、日々の家事を行いながら上の子供たちのお世話をすることができました。子供たちは出生前と同じ生活リズムで過ごすことができたため、保育園や家庭でも元気でした。

今回初めて1か月ほどの育児休業を取得し、家事と上の子供たちの育児を中心に生活していたのですが、次から次へとやることが増えていきました。今まで妻がやっていた分もやることになると、一つ一つにかけられる時間も短くなり、段取りよく進めなくてはという気持ちになりました。育児休業中に時間の大切さに気付くことができたので、復帰後、時間がかかる業務と優先的に処理する業務の区別を行い、効率的に仕事を行う意識ができました。

■育児休業取得にあたり、休業前に職場で取り組んだこと

自分が担当していた問合せ対応や課題を整理し、急ぎの案件はチーム内の方に担当分けし、対応していただきました。整理したつもりが、いくつか伝え忘れていた案件もありましたが、職場の皆様には臨機応変に対応していただきました。

■子育て中にあると嬉しい制度は

共働きかつ祖父母に頼りづらい家庭にとっては、病児保育はとてありがたい制度です。しかし、事前予約制のところも多く、突然の発熱や体調不良には対応していただけないこともあります。体調不良の子供の保育という難しい状況ではありますが、柔軟な病児保育の受け入れがあるとより働きやすい環境になるのではと思います。

■これから出産をひかえているパパたちへのメッセージ

育児や家事に使える時間が増えると、妻や家族への負担も減り、円満に日常生活を送ることができます。赤ちゃんはお母さんにしがみつくとに必死だと思うので、お父さんは縁の下の力持ちになることで、子供たちは元気に成長します！



※育児休業・休暇を取得された方からの体験談を随時募集しております。ご協力いただける方は当センターまでご連絡ください。

※過去の男性育休取得者記事はこちら (<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/seido/>)



富山大学における多様性の推進に向けて、学生・教員・職員など
様々な方からのご意見を発信するためのコラムリレーです



●工学部工学科機械工学コースの女子学生 森さんと 大法さんにインタビューを実施

ーものづくりが大好きというお二人ですが、工学の魅力や機械工学コースの魅力は？

(森さん)

金属塊からモノをうみだせる、魅力はそれに尽きます。あとは、専門の技術を身に付けられたと感じられたときにやりがいを感じます。旋盤の技術や図面設計などにおける様々な国家資格があり、それらの資格取得を通して自分に技術が身についていると実感できますし、どんどん自分のものづくりの幅が広がっていくと感じられます。技術が身につけば、より創り出せるものが増える。「自分で考えたモノが、そのままの形で産み出せる」ようになるということです！考えたモノをまず図面に起こし、材料が選べ、加工工程を決め、形作る。この一連の流れを自分でできるようになるのは感動的です！！

(大法さん)

工学部には、コース横断のリーダー育成実践学という探究型授業があり、私はその中でガラス加工のプロジェクトチームに参加しているのですが、そのプロジェクトを通してものづくりの技術を高める機会を得ています。大学1年次からそういった機会を得たければ、リーダー育成実践学の受講は必須だと思います。

ーどうすれば工学分野に女子学生が増えると思いますか？

(森さん)

まずはものづくりが身近にあることが大事だと思います。私が在籍していた工業高校は、イベントをよく開催していますが、コロナでイベントをパタッとやめたときには、女子の入学生が明らかに減ったということがありました。イベントの持つ力はすごいと思いましたね。楽しいイベントにするのが大事です。高校生が自分たちで一からつくったワニワニパニックを、来場した子どもたちに遊んでもらう、とか。それで男の子と一緒に来たお姉ちゃんも一緒に遊んで興味を持ったりする、そうやって工業高校のイベントに参加してきた女子生徒は私の友人にも多いです。イベントは大事ですよ！

だから、工業系の先生なり学生なりが機械を小学校に持ち込んで遊びながら体験するだとか、そういった機会が月1回ぐらいの頻度で定期的にある、という状況が必要です。そんな今は無いでもんね。もともと工学やロボット系に興味がある子かその保護者が、自分で見つけてきて参加するイベントはありますけど。多くの人が工学の世界を身近に感じるまで、働きかけをするのが有効だと思います。

※インタビューの全文はこちら

(<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/role-model/rikou/honbun/rikou-interview.html>)



お知らせ

入試時の保育支援について

保育支援の一環として、大学入学共通テスト時と一般選抜時において業務に従事した本学の教職員を対象に、休日保育利用料の補助を行っています。今年度は、2名の教職員を支援しました。

ニュースレターの名称(愛称)募集

ダイバーシティ推進センターが発行するニュースレターの名称(愛称)を、本学教職員・学生から募集します。

1. 応募方法： 所定の応募用formに以下の必要事項を記載し、送付

①名称(愛称)

②意図・コンセプト

③応募者氏名、所属、職名・学年、連絡先(電話番号・メールアドレス)

応募用form URL: <https://forms.office.com/r/qbKXEnapsd>

2. 応募期限： 令和6年4月30日(火)



寄附で応援

「富山大学ダイバーシティ推進宣言」に基づく環境整備のため、皆様からの温かいご支援をお願いしております。

※詳細URL (<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/donation.html>)



富山大学 ダイバーシティ推進センター

〒930-8555

富山県富山市五福3190 富山大学学生支援・地域連携交流プラザ2F
Tel. 076-445-6146、6239 E-mail: smart@ctg.u-toyama.ac.jp

